



新春メッセージ

～ 未来への扉を開く ～

新年あけましておめでとうございます。



兵庫県政150周年、2018年の幕が開きました。1868年、後に近代日本の発展を牽引する神戸港の開港に続いて兵庫県が発足し、150年となります。

今年は、本県の行財政構造改革の目標年でもあります。阪神・淡路大震災や経済不況で危機に陥った財政の立て直しに着手して10年。最後の仕上げの時が来ました。

この大きな節目を新しい兵庫づくりへの転換点にしなければなりません。

これまでの150年は成長の時代でした。これからは成熟の時代です。人口は50年以上、100年近くは減少します。経済も右肩上がりの拡大は見込めません。一人ひとりが夢の実現や豊かな時間の過ごし方を今以上に求める時代になるはずだ。

今後も活力に満ちた兵庫であり続けるため、人口減少、少子高齢化に適応しながら、新たな価値観や県民が求める多様な生き方、働き方に対応できる地域を創っていく。2018年、そのための新たな挑戦を始めます。

第一に、未来への道筋を描く。兵庫の進むべき方向を県民と共有するため、10年後のめざす姿と、持続可能な県政運営の枠組みを示します。

第二に、少子高齢化への対応。安心して子どもを生み育てられる社会づくり、誰もが生きがいを持って長寿を全うできる社会づくりを進めます。

第三に、次代を担う人づくり。人工知能に置き換えられない創造力や感性を伸ばす教育に力を入れます。大人の学び直しや柔軟な働き方ができる環境も整えます。

第四に、元気な地域づくり。次世代産業の育成、農林水産業の基幹産業化、国内外との交流や芸術文化・スポーツによる賑わいの創出に取り組みます。

第五に、社会基盤の充実。活発な社会経済活動の基礎になる高速道路などの整備を進め、近い将来起こるとされる巨大災害への備えにも万全を期します。

ふるさとを愛する県民の皆様と共に兵庫県政150年を機に新しい地域づくりのスタートを切る。さあ、力を合わせて未来への扉を開きましょう。

兵庫県 150年迎え 新しいふるさとづくり 持続目指さん

兵庫県知事

井 戸 敏 三

巻頭言

代表 村上 裕隆

今年度は、東日本大震災から8年目になるうとしています。

私たちができることは炊き出し、ドロ出し、がれき処理、避難所訪問、喫茶開設、農林漁ボランティア、在宅被災者戸別訪問など限られていました。海外でも同様だと思います。はじめて機構に参加させていただいた時期は、参加者の足手まといにならないように付いていくのに必死でした。人前で話すこと、ボランティア活動の段取り、計画、実施を担う指導者になるなど夢にも思っていませんでした。未知の土地で、家族以上に親しくなった被災者から多くを学ばせていただきました。外観からはわからないことも

多く、失敗もしました。家が残っていても二階は津波により空洞であつても、二部損壊にはぜんぜん支給されない現実や、ご家族のどなたが津波の犠牲になられての寂しさ、悲しさ、苦悩について洞察することはできませんでした。「しゃべくりより現場での実践」に徹しているからです。

2011年の3月11以降、宮城県石巻市を80回以上訪問し、また丹波水害(2014年8月15日、18日)、鬼怒川水害(2015年9月9日、11日)、熊本・大分地震(2016年4月14日、16日)、九州北部豪雨(2017年7月5日、6日)が発生すると現場に急行してきました。炊き出し、寄り添うことが中心です。

「カヨ子基金」を通じて、日本の里親のみならず、なまからのご支縁が、孤児の方々の教育費として用いられています。2017年4月24日、バヌアツ(9名)、ネパール(12名)、ベトナム(8名)からスタートしました。親のない方々は日本の善意に満ちた親心をもっと待ち望んでおられます。引き続き、里親が広がり、人類がひとつの家族のようになる時代が来ることを祈ります。

連絡事項

◆2月18日(日) 21日(水)

福岡県朝倉市 杷木 松末

参加者募集

◆2月25日(日) 午前10時

青活祭フリーステイル 神戸市元町商店街

パネル展示、ヨガ体験

◆3月2日(金) 午前11時

餅つき大会 宮城県石巻市渡波

長浜幼稚園 (豪雪のため、1月23日から延期)

ヤマザキ
世界のパン
ヤマザキ

Otsuka
株式会社 大塚製薬工場
〒772-8601
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
TEL 088-685-1151 (代表)

MiYOSHi
ミヨシ石鹸株式会社
〒130-0021
東京都墨田区緑3-8-12
TEL 03-3634-1341

想いをかたちに 未来へつなぐ
TAKENAKA
竹中工務店
〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13
〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1



山本 智也

復旧、復興、再建には「箱モノ」より大切な「暮らし」が揺らいでいました。若い人たちが地元にとどまらず、将来に希望や勇気をもつことができる何があるだろうかと話し合いました。農・林・漁の中心となる方々が一同に会して、話し合えば、良いアイデアが生まれるにちがいないと石巻市渡波の代表者たち集まってもらったことにしました。

2012年1月16日、丹野一雄宮城県漁業協同組合委員長のご自宅に、石巻森林組合鈴木

平成29年12月 1 日

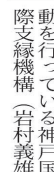
食べ放題に大勢の人たち

大震災後、石巻市内に神戸国際支援機構が設立され、岩村義雄代表は21日、学校法人渡波学園の長沢幼雅園（後藤電機社長）を訪問し、園児140名と職員らとともに、「第6回田・山・海収穫祭」を行った。

会場のホテルには園児をはじめ地域住民のほか、森林組合代表者をはじめ三浦敏朗議員や宮司、三浦敏朗議員など参加者約50人が出席。国際支援機構から提供された「ひとこと」のおみやげやノリカキ、牛肉の汁物ほか、食べ放題で、来場者がミネソラの無添加剤がミョバネの恵みで渡波際前の水で育ち、我々ちと田んぼで刈り取った稲米をおいしくいただき、来場者みなさんに提供し感謝されている。

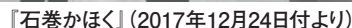
平成30年1月1日

東日本大震災後から
石巻地区で復興支援活動



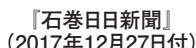
理事長は、年末の23日午後1時から渡辺の黄金会館で恒例の「クリスマス集會」を開催した。

会場には渡辺地区内に住んでいる中国やフイリピン、ベトナムなどの家族や研修生と主事長どもも参加。岩村理事長はじめ同機構の関係者が、サンタクロースのコスチュームで接待し努め、12品目のランチを提供、参加者みんなどおいしく食べたまか、佐藤金一郎さんと渡辺町三丁目



石巻の「受縁力」が励

神戸国際支縁機構の届け役を担った。岩村義雄代表は兵庫県には22日、石巻市内の幼稚園や障害者支援の幼稚園や保育所、

[illegible]

豊市渡波地区で収穫された米を味わう「甲山灣」収穫祭が先日、石渡波地区を中心に高

いました。石巻森林組合もプログラムにご出席するだけでなく、組合から支援してくださっています。収穫祭におけるノリ汁の生のりも参加者に毎年喜ばれてきました。

渡波の指導者たちとの出会いは機構の働きに大きな影響をもたらしました。

米づくりに刺激を受け、神戸で、兵庫農漁村社会研究所保田茂先生からボランティア参加者たちは無農薬、有機、保田ぼかし（無農薬、有機による乳酸菌こやし）を学んでいます。

渡波で、亀山繁氏、保原政美氏、佐島かつ子さん、みさえさん親子のご協力によつて、園児たちとおいしいお米を作っています。


幼稚園の時から、自産自消「自分で作つて、自分で食べる（消費する）」ことの動機づけにふれる機会にもなっています。

法律相談初回無料。
お気軽にご相談下さい。

シャローム総合法律事務所

弁護士 宮永堯史 弁護士 中川内峰幸

〒650-0016 神戸市中央区楠通1-2-14

 **0120-997-181**

TEL 078-351-1325 FAX 078-351-1270



創業明治 30 年
おかげさまで創業 120 年

ゴーフル®

いいものは
時代をこえて
生き続けます



神戸月見堂

URL <http://www.kobe-fugutsudo.co.jp>



「ヒューマンティ・ファスト」
日本アハマディ・ムスリム協会


KINSAN

夢に近づく
夢を産み出す…

KS 近畿産業信用組合

総合コールセンター

0120-111-019



2017年12月28日 マリッシュ



シリア難民キャンプ 孤児のために救援・募金

国際部

終わりが見えないシリアの紛争。第2次世界大戦以降、最大の人道危機です。平和な街、村、人々の談笑が消えてしまいました。国外に脱出を余儀なくされたシリア人は7年間で国内だけで、650万人、国外へ512万6969万人に及びます。シリア人口1856万4000人の内、6割が難民です。アサド政権、アメリカが支援するアルカイダなどの反対派、最高指導者バグダーディー「1971〜2017」率いた過激派組織「イスラム国」(IS)、クルド人勢力の衝突があります。それぞれが「正義」を主張します。大きくはアサド政権と反体制派が対立しています。とくに「アラブの春」の波がシ

リアにも影響しました。シリアの民主化という大義名分、イスラム国のテロに対する戦いというスローガンで米国は軍事介入しました。シリアの悲劇の序章です。サウジアラビアから石油の利権をとりつづけたため、シリア国アサド政権に反政府組織に米国は武器供与し続けました。

その結果、シリア全土は主戦場になりました。今、一番優先すべきことは、「難

民」問題です。シリア国土からどれかを排除すれば解決する次元ではありません。なぜなら排除した側の暴力、つまり必要悪を認めたことになるからです。内戦終結のために第一歩として、戦争の最大の犠牲者である弱い立場の孤児、夫をなくした独身女性、高齢の独居者と「共生」、「共苦」、「苦縁」することを第一歩とすべきでしょう。

機構の岩村義雄会長は2017年12月28日1月4日にシリア人難民キャンプを訪問。

昨年「核兵器は必要悪ではなく絶対悪」とオスロでノーベル平和賞の式典でサーロー節子

阿部 和夫

初めて地球を一回りした日本人

～石巻若宮丸物語②～

プロフィール
1938年宮城県石巻市生。石巻小学校長1999年退職。石巻市教育委員会教育長(1999〜2008)。

イルクーツクで日本人との出会い
オホーツクに滞在していた漂流民の一行は、望郷の念止み難いものがありました。帰国を具体化するためには、この地に居るより、シベリア第一の都市イルクーツクに移動するのがよいことを土地の役人から勧められます。折よくその地の役人がイルクーツクにもどることにになり、先ず3人だけを同行することになりました。ロシア側は善六を指定し、外の二名は日本側で人選した。善六は、ロシア語を理解するようになっていたのです。

1795年8月にオホーツクを出発しますが、櫓で180日程かかる道のりで翌年1月イルクーツクに着きます。第二のグループは、5月に左太夫をリーダーに5人が出発、そして二か月遅れて津太夫等7人が出発しました。その中にいた市

さんは語りました。戦争も必要悪ではなく絶対悪ではないでしようか、と自問せざるを得ませんでした。



2018年1月2日 シュラキー

五郎は、ヤクーツクを前にして腫物が出て高熱に苦しめられました。ヤクーツクに着くと病院に入院して治療をしますが、その甲斐なく32才の若さで亡くなつてしまいました。仲間から2人目の死者が出てしまいました。

最後のグループがイルクーツクに着いたのは、善六等の第一陣が着いてからほぼ一年も経過した後のことでした。

イルクーツクに着いた一行にとつて、嬉しい出来事がありました。思いがけなくも、二人の日本人と出会いました。信蔵と庄蔵です。2人は伊勢国白子浦の神昌丸の水主でした。神昌丸は、大黒屋幸太夫等17名を乗せ江戸に向けて出帆しますが、遭難しロシアに漂着しました。その漂流民は、ロシアの対日政策のおかげでラクスマンに連れられ大黒屋幸太夫外2名が帰国出来しました。しかし信蔵と庄蔵は、ロシア正教に改宗して、信蔵はニコライ・ペトロヴィチ・コロトウイギン、庄蔵はフィヨドル・ステパノヴィッチ・シトニコフと言う名のロシア人になって日本語学校の教師をしていました。そのため帰国は出来ずロシアに留まっていたのです。

若宮丸の漂流民にとつて、日本語を話すニコライ信蔵、フィヨドル庄蔵と出会えたことは、大きな喜びでした。自分達の話す内容が確実にロシア側に伝えて貰えたのです。しかし、二人との出会いは、決していいことだけではありませんでした。(以下次号)



TAMANOHADA

代表取締役 三木 晴雄

〒130-0021 東京都墨田区緑 3-8-12
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124
URL: www.tamanohada.co.jp

(株)吉原金属

神戸市北区道場町塩田2082

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は

本田商会

〒662-0051 西宮市羽衣町5-23

電話: 0798-38-7560

FAX: 0798-38-7561

お気軽にご相談ください。

(有)吉田興業

神戸市兵庫区湊町1-1

「田・山・湾の復活」(その十四)

災害大国

岩村 義雄

災害大国日本でいつも後手に回って復興にとりくんでいないでしょうか。

今年になって、被災地である宮城県石巻市牡鹿半島、フクシマ、熊本、大分地震などへの復帰は2割というニュースもあります。

それぞれの復興の在り方を同じ土俵で論じることができません。被災地の復興の立ち遅れに接していると、日本の未来図に希望を見いだせません。共通しているのは過度の職住分離が進むことにより、暮らしの利便性が悪くなっていることです。たとえば、津波により水没して消えた故郷である宮

城県石巻市長面の住民は今も仮設住宅住まいです。狭く、粗末な作りのため、決して快適な居住空間ではありません。しかし、「高台移転、職住分離」というルールによって牡蠣剥き工場など仕事場は長面にできました。通勤のため車で1時間ほどかかりました。まさに大都会と同じように「痛動」です。復興において決められた物差しによって被災者は困惑してしまっています。住民たちが決めたのではなく、上からの押しつけです。津波再来を考慮しているかのように見えていますが、そうではありません。先に「防潮堤」ありきです。約7m近くの防潮堤を建てる場所は危険区域とされました。まだ住める住居も解体せよ、とお達しが出ます。解体費用も自己負担なので住民は怒っています。

長面から約3.9キロ離れた大川小学校(海拔97m)でも高さ8.6mの津波で84名のいのちが消えたのです。無用な防潮堤でだれが益を受けるのでしょうか。白砂青松、追波川沿いの道路が夕日に映えており、牡鹿半島から帰路、どれほど美しかったかと故阿部捷一支所長は語っておられました。自然の光きらめき、風景は郷土を愛する大切な原像です。

無機質な防潮堤で東北地方が元気になるわけありません。セメント会社だけ儲かる政治家の野心に黙っていいものでしょうか。

「復興」とは人の暮らせない「箱モノ」建設になってはいけません。コンクリートは海の水質を変えてしま

います。海に生きる地元の人たちは「泡が出る」とほやきます。養殖にダメージを与えるからです。

阪神・淡路大震災以降も神戸市長田区の「アスタくにつか」建設コスト高騰のツケを被災者が負担させられました。現在、商店街はゴーストタウンとなつています。行政がもう少し待つようにと言った震災から15年後にできたマンション「宝塚第3コーポラス」は入居者がほとんどいません。行政が決めてやると住民不在の予算の無駄遣いに終わります。

自然環境との共生を無視すると、大都会への若者流出に拍車をかけます。通勤に時間がかかる東京スタイルを被災地に持ち込んでよいものでしょうか。震災失業二重ローン、被災による破産は生きている喜びを奪ってしまいました。被災地でも共稼ぎは当たり前、託児所、保育園に乳児の時から預けて子育ては教育家でない素人である他人任せ、核家族、墓も永代供養のため破棄では、コミュニティは破壊します。

家族関係もアジア諸国の中で一番希薄になっていないでしょうか。みんなで助け合う社会も過去のものになりつつあります。人は被災後も生活していかなければなりません。個々の一人ひとりによって震災で遭遇した傷跡は異なります。役人は同じ処方箋などあり得ないことに気づかず、十把一絡げにルールを押し付ける体質があります。復興マンションに入っても、避難所、仮設住宅の隣人とのつながりがなくなつたりします。見た目からは判断できません。隣近所との疎遠や、買い物にも行くことができない、惣菜を買いおカネがないなどは外からはわかりません。自立の基盤が未回復な人たちは孤独死に追い込まれます。2015年、宮城県石巻市吉野町に復興住宅ができました。しかし、158戸の内、翌年には近所づきあいもない重い鉄の扉の中で9人が孤立死していました。

未来について描けない復興ヴィジョンなら希望がありません。一人ひとりのいのち、暮らし、喜びがもたらされる「こころ」を大切に復興が求められます。

1 季刊誌「支縁」No.19(2頁) 神戸国際支縁機構発行 2017年5月。

2 拙稿「牡鹿半島 聞き取り調査(1)追波川大川小学校」(2011年7月2日)。

3 <http://kkschoke.sub.jp/article/proposal/471/> 拙稿「クリスタントウデイ」(2018年1月17日付)。
4 「読売新聞」(2016年6月27日付)。

救援金、維持会費ご協力感谢您。

(敬称略)

2017年10月22日～1月20日

沖縄バプテスト連盟ルア教会、伊礼徹、本田寿久(2)、西上千栄子(2)、内貴千代子、神戸国際キリスト教会、岩村義雄、左成和朗、本田すみ代、(株)古原金属、具正一、前哲夫、村上タカ、中道澄春(5)、神納茂子、豊原大成[全国仏教会前理事長](2)、兵頭晴喜、池田裕子、早野美智子、松森正樹、藤本英樹(2)、宮坂信章、池永タケコ、高嶋俊男、高島邦男、宮氏道夫、太田政弘、韓煥治、石田由子、酒井彰、酒井久美子、坂弓矢、千葉幸一(2)、藤丸秀浄(法専寺住職)、観音寺(三鷹市)、松岡直子、安田吉三郎、「小さくされた人々のための福音」講座(3)、石川満澄(2)、石川久子(2)、神戸聖福教会(3)、中山圭子、鍋島隆、三浦一敏、保田薫、有志、金米、佐藤金一郎、佐藤晴美、北川禮子、藤本新作、白承豪、武本泰、島田信一、青木玉江、谷合公江、大久保和代、森田美芽、藤玄洋(朝倉市西宗寺住職)、木村ふみ子(石巻市)、長浜幼稚園(宮城県石巻市)、福島陽子、栗原健、松岡泰夫、春名純人、春名美智子、松本誠、尾関マユミ、的野慶子、鄭惠姫、日野謙一、三嶋充宏(熊本県益城町)、古川直子、神戸キリスト教書店、岡本毅一、熊野千秋、尾島淳義、武智務、庄司慈明(宮城県石巻)、小島千鶴、島内糸夫、大槻良文、樋口寛、樋口勘一郎(朝倉市松木)、KISO牧場、中山敬一郎、祐照寺(古川真照住職)、柳澤豊、岩崎謙、朝日華子、貞松融、河内常男、金承鎬、東垂水ルーテル教会、山本勝、土手ゆき子(2)、河北新報社、服部良一、近藤春樹、山下妙子、本田洋子、アシュラム・センター、村上安世、末吉和子、守屋香代子、吉田隆、有限会社吉田興業吉田明、岡田えり子、村田充八、在日大韓基督教会神戸教会、山崎製パン株式会社、白方誠彌、近畿産業信用組合、長島康弘、春原和子、石黒義正、三木美保、(株)大塚製薬工場、土手朋、土手暁、土手直、北村恭男、保田茂
フードバンク関西からの炊き出し用食材、櫻井由里子(第39次、耕支縁、炊き出し)からじゃがいもを炊き出し用に提供していただきました。佐島みさえ、初すりにご協力いただきました。古川直子東北熊本チャリティコンサート、東垂水ルーテル教会、小紫義弘牧師のご支援、宮城県石巻市波渡の丹野清(宮城県石巻市市会議長)、横山豊有(無障金剛院住職)からのお米など、丹野典彦からの海苔、(株)チュチュアンナの上田利昭からの婦人用靴下。感謝。

計715,000円

2017年10月22日～1月20日

内貴千代子、西上千栄子、池田裕子、早野美智子、兵頭晴喜、豊原大成[全国仏教会前理事長]、中道澄春、菊池則子、宮坂信章、池永タケコ、高島邦夫、韓煥治、石田由子、坂弓矢、千葉幸一、安田吉三郎、石川満澄、石川久子、三浦一敏、保田薫、金米、佐藤金一郎、佐藤晴美、北川禮子、藤本新作、白承豪、湊乃莉子、荒木みつる、青木玉江、島田信一、谷合公江、平澤久紀、森田美芽、木村ふみ子(石巻市)、飯原洋子、酒巻美和子、福島陽子、栗原健、松本誠、尾関マユミ、三木清、三木千佳、的野慶子、鄭惠姫、日野謙一、藤原加寿子、鶴崎祥子、古川直子、熊野千秋、尾島淳義、武智務、庄司慈明、小島千鶴、樋口寛、樋口勘一郎、中島信光、東垂水ルーテル教会、山下寛、山下弘美、朝日華子、河内常男、金承鎬、土手ゆき子、服部良一、山下妙子、本田洋子、村上安世、白川台キリスト教会小紫義弘、主イエス恵愛教会高橋務、末吉和子、守屋香代子、吉田隆、岡田えり子、村田充八、白方誠彌、春原和子、三木美保、土手朋、土手暁、土手直
小計1,857,500円

2017年10月22日～1月20日

岩村義雄、神戸国際キリスト教会、「小さくされた人々のための福音」講座、保田茂、沖縄バプテスト連盟ルア教会、土手晃

計38,764円

編集後記

本田哲郎セミナーで機構を知り、去年から事務局でお手伝いさせていただき、有意義な働きに携われてうれしく感謝しています。発送作業、出納、書類整理など、多岐にわたっての働きがあります。息子たちや友人も応援してください。水谷弥生さん、小島美智子さん、櫻井由里子さん、村上三喜子さん、大田美智子さんなど、皆さまありがとうございます。 土手 ゆき子

(一社)神戸国際支縁機構

●ボランティアや移住者募集中

毎月、被災地へ赴きます。農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。詳細はホームページ。

●被災地への支援物資もお願いします。

●年会費をお願いします。

会員(年度4月～翌3月)の皆さまには、季刊誌などをお送りします。事務局長 本田 寿久